

## 校内研究授業

### 4年国語「事実にもとづいて 書かれた本を読もう」



目標（学習指導要領より）

【知識・技能】

・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。

【思考・判断・表現】

・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。

・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

4年2組で研究授業を行いました。

本の帯を作りました。

本の帯を作るためには、まずは本の内容を読み取ることが必要です。子どもたちの課題に「書く」ことがあげられます。しかし、本の帯を書くためには、本を読んで、内容を理解することからはじめなければなりません。「読む」ことを「書く」ことにつなげます。本を読んで、本に書かれた内容を短く紹介する文章を書く授業をしました。



本時の目標は、「本文の内容を要約し、紹介文を書く」です。

本の帯を作るためには、本の内容を読み取り、短くまとめること（要約）が必要です。要約は、4年生で新しく学習する用語です。

本時では、本の帯に載せる「本の内容のかんたんなしょうかいや感想」と「引用・キャッチコピー」を考えました。簡単な紹介文を書くために、要約を使いました。

教科書に載っている『ランドセルは海をこえて』というノンフィクション作品を使って、本の帯作りに挑戦しました。

まずは、読みます。一番心に残ったところを探しながら読み、この本が伝えていることは何かを考えます。これは、キャッチコピーを考えることにもつながります。次に、大事なことが伝わるように紹介文を書きます。しかし、いざ書き始めるとなると、何から書き始めたらよいか分からない…という子どもも少なくありません。そのために、書くためのヒントを準備しました。

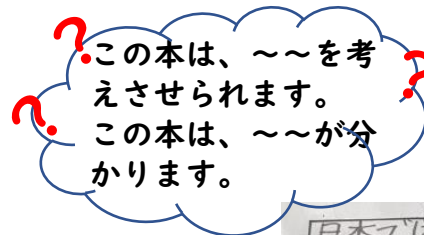


ヒント

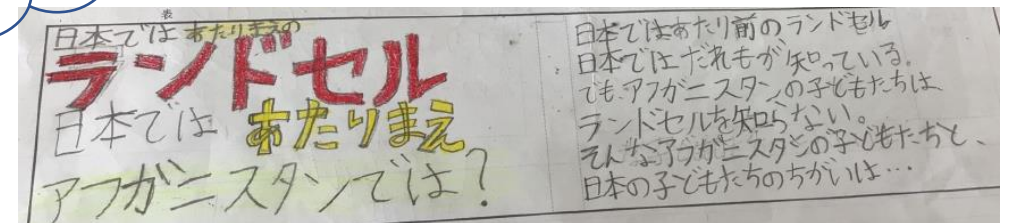
この本は、～～を考えさせられます。  
この本は、～～が分かります。

書き出しの言葉があるだけで、迷いなく書き始めることができました。

さて、本の帯は、読み手を意識して書くものです。読み手が読みやすい工夫とは、どのようなものでしょうか。



子どもたちの書いた文章は、原稿用紙を使った時のように、枠の大きさに合わせただけの改行になっていました。その読みづらさに気づき、相手が読みやすいような改行や言葉のつながりを考えて紹介文を仕上げました。



書く活動は、子どもたちが苦手とするものです。子どもたちに「できる」と思ってもらえるように、何のために書くのか目的意識をもつこと、だれのために書くのか相手を意識すること、この二つを意識した学習計画を立てていきます。

さらに、語彙力を高めることは、自分の思いや情景をよりわかりやすく表現できることにつながります。これからも、「言葉の力」を育む授業づくりをすすめていきます。